

九州民放クラブだより

平成28年 熊本地震に思う

園田洋一郎(RKK)

明日ありと思う心の仇愾
 夜半に嵐の吹かぬものは

(親鸞上人繪詞伝)

4月14日、21時26分。震度7、M6.5。突き上げられるような衝撃。建具が軋めき、ガチャガチャと食器が落下する音。魂消たことに仏壇が素っ飛んできた。こんなのある？って感じた。直下型地震は、凄まじくって怖い。揺れの所為で、足は未だふらついていた。二階から「大丈夫か？」と愚息が降りて来た。テレビの地震速報は「震源は熊本地方、益城。震度7」と。地震とは縁遠い所と思ひ込んでいたが、勝手読みだった。

福島の原発事故もそうだったが、「想定外」なんて言い訳は、形而下の世界では許されぬことだ。揺れは収まったが、割れた食器類や崩れ落ちた書籍などで足の踏み場もない。

家族の無事安穩を確認したとき、更に6弱の揺れが来た。ずっと余震は続いたが、悪足掻きは止して布団に潜り込んだ。

翌朝、惨憺たる有り様に啞然としたが、寝泊まりするだけのスペース確保に精を出した。前夜の揺れが三時間遅れだったら、私は仏壇の下敷きであの世行きは必定だった。「夜更かしの朝寝坊」も満更でもない。「命冥加な奴」と、自らを愛でながら零時過ぎまで痛飲、床に就いた。だが、事は未だ終わらなかつた。



RKK報道特番(5/14)映像

16日、1時25分、震度7、M7.3。布団ごと宙に放り出される感じで深い眠りを破られた。ドドドドドという不気味な音、現世のものとも思えぬ恐怖に立ち

竦んだ。揺れは長く激しかった。それも道理だ。後の地震が「平成28年熊本地震」の本震だったとは。

「地震・雷・火事・親父」とは、世の中の恐ろしいものを順に並べた言葉だが、地震が筆頭であることは確かだ。家族は、疾く戸外に難を避けていた。周章狼狽したって仕様もないと不貞寝を決め込んだ私に、立ち戻った愚息は苛立つて叫んだ。「こんど揺れたら、家はぶつ潰れるぞ」。

駐車場に設らえたシートに肩を寄せ合ってまんじりともしなかつたが、地割れの虞があるということとで、近くの湖東中学校体育館へ避難した。館の内外に2000人が舁めいていた。あれから一ヶ月、未だに避難生活が続いている。

自らも避難者であるう行政、それにボランティアの方々の労苦に感謝の毎日である。

熊本地震は、南北方向に引っ張られる形で断層が動く「横ずれ断層型」だという。震度7を2回記録した益城町は、住宅の損壊が比較的傾斜の緩やかな地域に集中している。また、地震の被害も甚大である。阿蘇神社の楼門が倒壊、

国道325号の阿蘇大橋も崩落。熊本城も建造物の全壊部分は北十八間櫓や不開門など五ヶ所、他の櫓の損壊や石垣の崩落など加えると五十二ヶ所に上る。



KKT報道特番(5/14)映像

有史以来、人間は戦火や災害や飢餓に追われ流浪を重ねてきた。

文明が進み科学技術の力で自然を征服したかにみえたが、所詮人間なんて自然に対しては「螻蛄の斧」的ちっぽけな存在。「災いを転じて福となす」の譬あり。自然への傲岸無礼な態度を改めるチャンスではなからうか。

民放クラブ及び各地区クラブから頂戴したご芳志とお見舞いの言葉に多謝。